

## 第八日目

師 範：日本の古代というか，成り立ちから 8 世紀初めまでの歴史を書き記している本は「日本書紀」という本です。



もう一つに「古事記」という本があります。「古事記」のほうが先につくられています，重なる時代が多い。

政府の手で，720年，元号でいえば天平時代に「日本書紀」がつくられ，その後も続編にあたる歴史書がつくられていきます。

天平文化・奈良時代の文化の代表的な作品です。

ところで，この「日本書紀」が著されるころ，力をもっていたのは藤原鎌足の子どもの藤原不比等でした。そのために藤原氏の祖となる中臣鎌足の功績を高く表現するように働きかけていたという説があります。

学者は，このことに注意しながら発掘によって得られる木簡の文章や他の資料と合わせながら，正しい歴史の姿をさぐっています。

### 720年 日本書紀ができる。

この古い日本の姿を書き記している「日本書紀」が，平城京に都が移されてから10年後の，720年につくられたことを覚えておきましょう。

コン太：「天平の何(なに)を語るか日本書紀」



というのですが，いかがでしょうか。

「な」は7，「に」は2，「を」は0をアルファベットのオーに変えて表しています。

天平文化の代表作というつもりで，天平といれました。

### 「奈良の何(なに)を語るか日本書紀」

でもいいです。

師 範：ずいぶん，うまくなりましたね。

ペン太：これ以外考えられない。まいりました。

